

グラベルバッグの砂利詰めについて

砂利をスコップで持ち上げて入れるという作業と、腰を曲げてする作業が一番辛い部分ですので、それを解決するために次のようなことを提案します。

- ①写真のような塩ビ管φ75ミリに太さを変える塩ビ繋ぎ手(φ100→φ75ミリ)を繋いで、漏斗状にします。(写真1)塩ビ管の長さですが、80-90cmぐらいが適当かとおもいます。使いやすいように、調節してください。

写真1



- ②それにグラベルバッグをかぶせて、砂利を入れていきます。塩ビ管が一杯になったら、引き抜きます。(写真2) 量が少ないようでしたら、砂利を足してください。

砂利詰めは地面に積んである砂利を扱うと、前かがみになって辛いので、スキッドローダーやタイヤショベルで砂利をすくってもらい、立ったまま作業が出来るくらいの高さまでバケツを持ち上げて、バケツを少しずつ傾けて砂利が入れやすいように調節します。

写真2



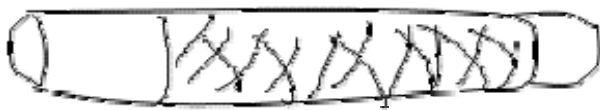
③あとは、バケツの角に先ほど作った塩ビパイプを当てて、砂利を入れていきます。
(すこし触ったら、砂利が落ちてくるぐらいにバケツの角度を調節するのがポイントです。)
(砂利の自重を利用しました。)

④出来れば、二人一組で、砂利を入れる役と、もう一人はその後ろで待機しておいて、砂利の入ったバッグを、受け取る役をすれば、作業が早くなると思います。

⑤砂利を詰めたバッグは最初、立てかけて置いたほうが次の作業がラクです。

一区切りついたら、(バケツの砂利がなくなるか、50 袋単位ぐらいで)作業をとめて、砂利を入れたバッグを結束バンドで結んでいきます。

注意！！ 結束バンドで縛る部分は 砂利から 5 cmぐらい離して結んでください。



↑ ↓ 砂利詰めた状態



5 - 6 cm空けて結ぶ

先ほどもいいましたが、砂利をいれたバッグを横に寝かせておいて置くと、結束バンドで結んでいく作業が大変になります。ですから、立てかけておいたほうが作業しやすいと思います。

結束バンドで結んだら、パレットに積んで、一連の作業は終了です。

不明な点がありましたら、いつでも言ってください。



(有)サンピラーズ
江島耕也

0155-21-4701 (携)080-5580-4511